

令和7年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会協議録

1 会議の概要

(1) 開催日時 令和7年8月7日(木) 19:02～19:59

(2) 開催場所 府中市保健福祉総合センター 3階会議室

(3) 出席者

会場参加:

委員長 内藤 賢一 副委員長 石原 広一

WEB参加:

委員 安達 伸生 委員 渡部 滋

(4) 欠席委員

委員 前田 嘉信

(5) 説明のため出席した者

府中市病院機構

理事長 多田 敦彦 事務局長 小森 祐一朗

府中市民病院事務長 八幡 憲和

府中市

市長 小野 申人 健康推進課長 宮原 哲也

地域医療係長 榎本 直揮 主任 皿田 敏幸

2 会議の内容

(1) 協議事項

令和6年度の業務実績評価(案)について

(2) 報告事項

令和7年度年度計画について(報告)

~~~~~

宮原健康推進課長(以下「課長」という。): ただいまから令和7年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を開催させていただきます。

19時02分

~~~~~

課長: 私は府中市健康推進課、課長をしております宮原と申します。 議事に入りますまでの間進行を務めさせていただきます。 よろしく願いいたします。

委員の皆様におかれましては、御多用の折、また夜間の会議の開催にもかかわらず本評価委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の評価委員会では、事前にお知らせをしておりましたとおり、第4期中期目

標期間の初年度となる令和6年度の業務実績評価案に対しまして御意見をいただくこととしております。円滑な進行を心がけてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、委員の皆様の出欠について御報告をさせていただきます。

まず、府中地区医師会会長、内藤賢一様、府中市監査委員、石原広一様、以上お二人は府中市の会場で御来場していただいております。

そして、広島大学病院院長の安達伸生様、それから広島県健康福祉局医療機能強化担当部長の渡部滋様、以上お二人がウェブで、現在参加をいただいております。

なお、岡山大学病院院長の前田嘉信様は、ただいま確認を取っておりますので、こちらの方、事務局の方で確認をしております。

なお、昨年7月に開催いたしました評価委員会から委員の変更はございません。

そして、資料につきまして、会議開催前に一式を送付させていただいておりますこと、またオンラインで出席の皆様へはメールでも送信をさせていただいておりますことから、説明の方は割愛をさせていただきます。資料に不足がありましたら、議事進行中でも結構ですので事務局へお申し付けください。

なお、本日の会議につきましては、事前にお知らせしておりましたように、報道関係者に会議の傍聴を許可しております。報道関係の皆様におかれましては、議事に入りましたら撮影禁止とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

そして本会議につきましては、会議録作成のため録音をさせていただきます。これもあらかじめ御了承ください。

~~~~~

課長： それでは開会に当たりまして、府中市長の小野が御挨拶を申し上げます。

小野市長： どうも皆さんこんばんは。

本日は、病院機構の評価委員会に御出席をいただきありがとうございます。

また委員の皆様におかれましては、日頃から地域医療に対しまして様々な面で御指導をいただいておりますことをこの場を借りてお礼を申し上げる次第であります。本日も皆さんの貴重な御意見を賜ればというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、地域医療につきましては、全国的に地域や診療科別の医師をはじめとした医療人材の偏在やコロナ後の公立病院の経営の悪化など、多岐にわたる課題が発生しております。そうした中であって、地域住民の健康を支える重要な役割を果たし続けていらっしゃいます医療関係者の皆様に対しまして、この場を借りて深くお礼を申し上げる次第であります。

また、本市の病院機構の運営に関わり医師派遣をはじめとして多大な御協力をいただいております両大学病院の院長様、また府中市の医療を支えていただいております

ます府中地区医師会の会長様に改めて感謝を申し上げる次第であります。

続いて、本日の議題となります令和6年度の病院機構の決算について簡単に触れさせていただきます。

医療機関への人件費上昇圧力や光熱水費などの物価高騰が続いており、病院機構においても大きな負担となっております。こうした中にあっても、院内スタッフの皆様の工夫や効率的な運営などの様々な取り組みにより、病院機構は結果として黒字決算となっております。これは、多田理事長をはじめ病院の運営に携わる皆様のたゆまぬ努力の成果であると、本市としては高く評価しております。

また、令和7年度からは、本市としては初めて医師奨学生が市民病院に着任するなど明るい話題も出ております。

このように喜ばしい話題がある一方で、現状に満足することなく、改善点や潜在的な課題を探ることも必要であろうと思っております。例えば医療サービスの質の向上や長期的な財政基盤の安定化など、様々な観点から病院運営を評価し、改善すべき点を洗い出すことが重要であると考えております。地域を取り巻く環境は常に変化しているところでありますが、新たな課題への対応が求められる中で、府中市民病院と府中北市民病院が今後も住民の生命と健康を守る要として機能し続けるために、本市としては必要な支援をこれまでと同様に積極的に行ってまいりたいと考えております。

本日は、令和6年度の業務実績評価に御意見をいただき、成案を得たいと考えております。委員の皆様には、それぞれの専門的知識と御経験を生かした活発な御議論をお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

~~~~~

課長： 続きまして、内藤委員長から御挨拶をいただきたいと思います。

内藤委員長： 皆さん、こんばんは。評価委員長の内藤でございます。

委員の皆様におかれましては、御多用の中、また遅くからの開催にもかかわらずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今回の評価委員会は、令和6年度の業務実績に関する評価に対する御意見や御助言などを取りまとめていきたいと思っておりますので、委員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

課長： ありがとうございます。

以降の進行につきましては、内藤委員長にお願いいたします。

~~~~~

内藤委員長： それでは、議事に入ります前に、今回の評価委員会の役割などについて、事務局から説明をお願いいたします。

課長： 失礼いたします。引き続き、健康推進課課長の宮原でございます。

私の方から、議事に先立ちまして、本日の評価委員会の主な内容につきまして、資料1を用いて説明をさせていただきます。

資料1、『地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会の目的』と題しました資料をご覧ください。

この評価委員会につきましては、地方独立行政法人法の規定に基づき設置を義務づけられた市長の附属機関でございまして、委員構成につきましては、資料に記載しております五つの団体から委員に御就任いただいております。

評価委員会の所掌事務につきましては、主なもの4点を資料中段に掲載をしております。

本日の評価委員会では、資料下段の『令和7年度評価委員会の目的・役割』にまとめておりますように、令和6年度の事業報告について市長が事業実績を評価するに当たり評価の案に対して評価委員の皆様から御意見を頂戴することとしており、皆様に御出席をしていただいているものです。

詳細につきましてはそれぞれの議事で説明をさせていただきます。

以上です。

内藤委員長： ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に沿って会議を進めてまいります。

次第の『4 議事』の『① 令和6年度業務実績評価（案）について』を議題といたします。

まず、府中市病院機構から業務実績についての説明を受け、続いて事務局から市の評価案について説明を受けた後、委員の皆様から評価についての御意見をいただきたいと思います。

それでは、府中市病院機構から簡潔に説明お願いいたします。

多田理事長： 府中市病院機構理事長の多田と申します。よろしくお願いいたします。

府中市民病院の医業収益の昨年の月別の実績について、4、5、6月はかなり厳しいスタートだったんですが、その後持ち直しまして、1年間を通じ、11月とか2月、ちょっと落ち込んだときもありますが、それほどの落ち込みではなく1年を経過しております。

結果としまして、過去2番目の高い成績、医業収益を得ることができました。

医業費用を重ねますと、かなり格差はあるんですが、医業収益は、2023年に比べて急速に改善しておりますが、費用の方は上昇をかなり抑えることができました。

そのため、コロナ補助金がなくなりました2023年から比べましても、赤字額をかなり抑えることができております。

府中市民病院の赤字額、純損失、それから北市民病院の純損失額であります。

府中北市民病院はかなり努力していただきまして、赤字額はかなり、年々下がる傾向となっております。

繰入金を含めました決算額としましては、2024年は、機構が始まってから4回目、そして3年ぶりの黒字決算となることができました、ということであります。

あと、残りにつきましては資料2の3ページのところから見ていただきたいと思います。

『大項目ごとの特記事項』としまして、まず『住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項』であります。感染対策、そして病床、診療科、救急医療、へき地医療などの医療機能を変えことなく継続するとともに、研修など市の保健事業が実施できる体制を維持しております。

医師の診療体制につきまして、府中市民病院では、10月末に内科常勤医師が開業するために退職したことによって、常勤医師数が6名から5名に減ることになりまして、外来患者数が減少となりました。しかし、非常勤医師に来ていただくなど、外来を助けてもらうことによって、かなり増えた入院についても何とか5名でこなすことができしております。また、3月をもちまして婦人科常勤医師が退職となりましたが、令和7年度からは非常勤医師を招へいすることができまして、診療が週2日、それから8月からはもう1名招へいすることができまして、週3日の体制となっております。

それから次の4ページの上の方であります。北市民病院の4階に併設していますサービス付き高齢者向け住宅につきましては、市からの借上げがなくなったんですが、順調に経営できております。

また、『業務運営の改善及び効率化に関する事項』でございますが、府中市民病院では患者満足度調査の実施、接遇研修、人員の効率的配置、病棟の選択的な2交代制の導入、それから医療安全などに継続して取り組んでおります。また働き方改革につきましては、看護補助者の配置やタスクシフトを行い、また医療質の向上のために、特定看護師の養成をしております。あと府中北市民病院では、令和5年度から継続して医業収益に対応した職員体制の維持をしております。また、看護師の負担軽減のために、多職種が看護師さんの業務支援に入るなどの取組を行っております。

それから4の『その他の業務運営に関する重要事項』でございますが、市の健康福祉関連施設として健診の受け入れを積極的に行うとともに、府中市民病院では、市が企画した健康づくり講演会、これ、フレイル対策なんですが、それに対しての参加、それから人工呼吸器を付けられた医療的ケア児の通学支援の事業へ関わっております。

また、講演会などの啓発活動を行っております。北市民病院につきましてはフレ

イル予防の対策のために、院長を中心とした講演活動やイベントを開催し、啓発活動を行っております。ただ、5ページにつきましては、各病院の、それぞれ役割機能の明確化ということですが、両病院とも、入院については病床利用率もかなり確保できておるんですが、外来患者数が両病院とも減少傾向にあるというところは、懸念材料というふうに考えております。

それから、7ページの下から3分の1のところにあります。府中北市民病院では、このたび、圏域外ではありますが、三次中央病院とか庄原赤十字病院が中心となっております地域医療連携推進法人備北メディカルネットワークに参加することになりました。これによりまして、医療従事者の確保、それから地域包括ケアの推進、そして限られた医療資源を有効に活用することが可能となっているというふうに考えております。

それから8ページの救急医療につきましては、府中市民病院では計画の目標値を実態を離れて高く設定したのでそれには及びませんでした。ここ数年、救急の受け入れ実績はかなり伸ばしてきておりますし、北市民病院につきましては60床という規模の割に頑張った救急受入をしているというふうに考えております。

それから感染症に関しまして、専用病床に転用可能な病床につきましては、府中市民病院は6床、そして北市民病院につきましては4床確保しております。

また4番の『へき地の医療対策』につきましては、府中市の中央部の山間部の準無医地区の久佐地区及び協和地区の巡回診療を継続しております。患者さんは段々に増えてきております。

それから次、9ページの在宅医療であります。府中市民病院では併設する地域包括支援センターのサブセンターとの連携、そして入退院支援チームの積極的な介入によって在宅医療の支援を行っております。

最後にIT技術の活用につきまして、電子処方せんの運用開始について準備をしているとともに、訪問看護においてタブレット端末をうまく利用していくようなこともあって効率化を図っておるということでもあります。

簡単ですが医療部門の報告を終わりたいと思います。

小森事務局長： 府中市病院機構事務局長の小森です。私からは、令和6年度の経営成績について説明をさせていただきます。

まず、同じ資料2の12ページの中段から下に、『第4 財務内容の改善に関する事項』というところがありますが、まず、法人の目標は、経常収支の黒字化を目標にしておりました。その結果について『(1) 経営成績に係るもの』のところに表になっておりますけども、先ほど理事長からも報告ありましたけども、経常収支比率は、府中市病院機構計画102.9%に対して101.6%となり、計画には少し足りませんけど、目標の黒字化は達成しましたというところです。経常収支比率の下に医業

収支比率があって、さらにその下に修正医業収支比率というのがありますが、これは市からの繰入金を除いた医業収支比率がどうだったかというところなので、この数字を見ていただくと、府中市病院機構の病院経営については府中市の繰り入れ、財政支援があった上で、黒字化が達成できているということです。

市の繰入金についてなんですけども、ページをめくっていただいて、14ページの上に、『(5) 一般会計が負担すべき経費の項目』のところで、その下に一覧で、繰入金の対象経費について表になっております。この報告には、実際に市からの繰入金が令和6年度幾らかいうところはこのページには書いてないですけど、合計で4億7,917万2,000円でした。これは、後の財務諸表の附属明細書のところでその金額は確認できます。

続いて、その下の2番の『計画的な設備投資』についてのところですけども、設備投資については、保有する設備、機器のうち耐用年数を超過して更新しなければ診療等に支障が生じるものの更新を計画に行っていくということです。このページの下の方に表があります、投資額、府中市民病院、北市民病院それぞれ、計画、右側は実績です。

府中市民病院の計画に対する実績がかなり少ないんですけども、これは、この表のちょっと上のところに説明を書いておりますけど、府中市民病院の計画額と実績額との差は、電子カルテ更新を令和7年度に変更したため計画よりもかなり少なくなっていると。府中北市民病院も計画よりも少ないんですけども、府中北市民病院については、同じような考え方で計画的に更新計画はつくってまんですけども、府中市民病院と比べて、同じような医療機器であっても使用頻度がかなり違いますので、できるだけ長く使っていこうということで計画よりも少なくなっております。

次、15ページの中段よりちょっと下に、『2 その他の事項に関する数値目標の設定』、『(1) 債務超過の解消』のところですけども、計画では、令和6年度末、債務超過を解消する計画でしたが、単年度の決算では黒字化は達成しましたが、債務超過を解消するまでには至りませんでした。まだ5,900万円ほど債務超過の状況になっております。

あと触れておきたいのは、参考資料1の財務諸表の資料です。財務諸表の3ページの損益計算書。ここで触れたいのは、本業の医業外のところです。府中北市民病院では、サービス付き高齢者向け住宅を運営しております。この単体での経営成績がどうだったかっていうところを説明したいんですが、医業収益の中段ぐらいにサービス付き高齢者向け住宅収益、2,232万1,237円。費用の方はちょっと下へ下がっていただいて、同じようにサービス付き高齢者向け住宅費用ということで合計で1,958万7,430円ということで、令和5年度、単体で赤字だったものを職員の配置を見直すことを中心に行って、令和6年度では黒字化に転換しております。

あと続いて触れておきたいのは、長期借入金、借金の状況です。17ページに長期借入金の明細というのがあります。これは、法人がスタートした以降に法人が借り入れた借金の明細ですけども、これの一番下の経営を見ていただくと、当初9億5,100万幾らありましたが、当期の増加額が6,000万、当期減少額が1億8,000万ということで、期末残高は8億3,100万余りということで、1億円余り長期借入金を減らしております。

次のページもあるんですけども、横の表になってますけど、『(5) 移行前地方債償還債務の明細』というのがあるんですけども、これは、法人をスタートする以前に、府中北市民病院が市の直営の病院であったときに既に借り入れた借金の状況を示してあります。

これも、期首の残高5億6,300万円、当期減少額1億800万円ということで、期末残高4億5,500万円ということで、順調に毎年度1億円強の返済を続けておりまして、期末残高で見ていくと、あと4年同じような返済をして、5年目にはかなり返済が少なくなっていると。だいぶ終わりが見えてきた状況になっております。

以上、経営成績に関係して説明を終わります。

内藤委員長： ありがとうございます。

続いて、事務局から市の評価（案）について説明をお願いいたします。

課長： それでは資料3、『地方独立行政法人府中市病院機構令和6年度業務実績に関する評価（案）』について御説明をさせていただきます。要点について説明をさせていただきます。

まず総合的な評定につきまして、2ページ目になります。こちらをお開きください。令和6年度の事業報告に対する総括的、全体的な評価、意見を記載をしております。

まず経営情報の面につきましては、近年の物価高騰や人件費上昇により経費が増加していることなどから、官民間わず全国の病院経営は非常に厳しい経営状況に置かれております。そんな中でも、病院機構では、令和6年度、約6,500万円の黒字決算となり、懸案でありました債務超過の解消が進んだことから、経営努力の結果として、市としても高く評価しているものでございます。

今回の中期目標期間から、市と病院機構で毎月の収益などの明確な目標を立て、毎月の資金状況を把握するなど、経営状況の見える化を図っております。より一層丁寧な経営状況の把握と管理ができたものと考えております。

ただ、黒字決算ではございますけれども、保有資金につきましては減少しているということもございまして、今後の債務超過状態の解消と保有資金の増加に対する取り組みが重要であろうと考えております。

続いて、医療機能面につきましては、府中市民、府中北市民の両病院で、医師確

保を含む取り組みにより診療体制が継続できており、医療提供体制の維持充実に重要な役割を果たしている」と評価をしております。

一方で、数値目標を下回った項目につきましては、要因の分析や実効性のある対策に触れられていないということもございまして、今後の改善に期待をするものでございます。

なお、今年4月から、本市奨学金制度による初めての医師が府中市民病院で勤務をしております。この若い医師の活躍で院内が活気づいているという報告も受けておりまして、収益面でだけではない効果も感じているところでございます。

続いて3ページになります。中期計画に定める事項ごとの評価についてでございます。参考資料3の第4期中期計画に定めのある項目ごとに評価を行っております。

まず、『住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項』において評価する点としましては、両病院は市内の緊急告知病院としての役割を担ったこと、そして市の保健事業への協力や健診、人間ドックの推進など市民の健康づくりの好循環に一定の貢献を果たしたこと、そして、府中市民病院では、多様な患者の受け入れを実施したこと、また、巡回診療を継続してへき地医療拠点病院としての役割を果たしていること、府中北市民病院では、地域唯一の病床を有する医療機関として救急医療及び診療科維持を継続し、外来入院患者数の目標を達成したこと、また備北メディカルネットワークへの参画推進により、地域連携の取り組みを着実に進めたことなどを挙げております。

一方で、改善を求める主な点としましては、外来患者数や入院患者数、病床利用率などの指標で、目標値に達していない、原因の分析や改善策の検討、そして周産期医療に係る他の病院、医療機関との連携の検討、こういったことを挙げております。

続きまして『業務運営の改善及び効率化に関する事項』において評価する主な点としましては、湯が丘病院への職員派遣など地域全体での効率的な人材活用を行っていること、職員のワーク・ライフ・バランスの確保が進んでいること、府中市民病院の患者満足度が高評価であることなどを挙げております。

一方で、改善を求める主な点としましては、職員の意欲を引き出す人事制度の検討が進めてられていないということ、情報発信が不十分で利用者に欲しい情報が届くよう努めること、府中北市民病院では満足度調査が未実施であること、などを挙げております。

また、評価とは別に、サイバーセキュリティ対策強化も指摘をしているところでございます。

続いて4ページになります。『財務内容の改善に関する事項』、『その他業務運営に関する重要事項』、『予算、収支計画及び資金計画』において評価する主な点とし

しては、物価高騰などによる医業費用の増加が続く中、市の追加繰り出しなく単年度黒字を達成したこと、常勤医師退職の影響を最小限に抑えるための医師確保に取り組んだこと、などを挙げております。

一方で、改善を求める主な点としましては、保有現金は減少しているため、より一層キャッシュフローを意識した運営を行い、まずは債務超過の完全な解消を目指すとともに、最終的な累積欠損金の解消に向けた努力をしていただきたい、という形で示しております。

以降の項目につきましては、特筆すべき点や該当する取り組みがなかったことから、評価については割愛をさせていただきます。

なお、この評価の項目ごとの詳細な内容につきましては、資料4の方に取りまとめをしておりますので、こちらを御参照ください。

市からの評価案の説明については以上でございます。

内藤委員長： ありがとうございます。

それでは、令和6年度の病院機構の業務実績や市の評価案について委員の皆様から御意見をいただきたいと思います。どなたか御意見のございます方、おられますでしょうか。

渡部委員、お願いします。

渡部委員： 広島県の渡部でございます。説明ありがとうございます。

先ほど説明の中にありましたように、国内の病院経営っていうのは非常に厳しい中で、ずっと増収しても費用の増加が著しくて減益してしまうというのが国内の医療機関、様々なところでも発生をしているという中において、単年度黒字になったということはすばらしい実績ではないかなというふうに感じているところであります。

これに大きく寄与したのは、外来の患者数の減という収益減を埋めるための利用率の一定程度の上昇やリハビリの大幅の増というのも挙げられる部分ではないかなというふうに思っております。

特にリハビリについては、実績数っていうのは大きく伸ばされていらっしゃるのではないかと考えています。このリハビリを大きく増加させることに至った改善の取り組みというのは何かございますでしょうか。例えばセラピストなどを含めたそういった職員の増加あるいは退院数を獲得するための運用の見直し、そういったものもあるのでしょうか。

内藤委員長： 病院機構、お願いします。

多田理事長： 理事長の多田です。

リハビリにつきましては、まずリハビリのスタッフが、新入院の方の全員チェックをして、リハビリの必要性の有無、またどういうタイミングでリハビリが必要で

あるかというようなことを、ほとんど市民病院、全員をチェックしていただいでるんで、主治医としても、そろそろ始めた方がいいんじゃないですかとか、いろいろそういうアドバイスをいただいて、これ、非常にありがたいし、患者さんにとっても、いいタイミングでリハビリが開始できる、また収益面でもかなり大きなメリットになったというふうに考えております。

渡部委員： ありがとうございます。

内藤委員長： リハビリスタッフの人数は増えているんじゃないですか。

多田理事長： まだ当院、十分な数とは考えてません。少しずつ増やそうというふうに考えておりますが、なかなか思いどおりに応募が進んでない気配でおります。しかし年々少しずつ増えてはいる状況です。

内藤委員長： 現有のスタッフでリハビリの必要な人をピックアップして、それで収益を上げていたというふうな理解でよろしいですか。

他にございますでしょうか。

安達委員： 安達からよろしいでしょうか。

内藤委員長： お願いします。

安達委員： この実績に関する評価については大変うまくまとまっていて、わかりやすく聞かせていただきました。

先ほど話がありましたように、どこの病院もそうですけども、今経営状況というのは非常に厳しい中、単年度の黒字を達成されたのは大変すばらしいことだと考えております。

中で説明があった、備北メディカルネットワークへの参画っていうのがあったんですけども、これ、広島県備北地区の大きなプロジェクトですけども、府中北市民病院としましては、メディカルネットワーク、どのような形で、活用と言いますか参画と言いますか、人材の循環とか、そういうのを考えておられるのかわかれば教えてください。

小森事務局長： 府中市病院機構事務局長の小森です。

北市民病院の備北メディカルネットワークへの参加についてなんですけども、令和6年度の北市民病院の地域別の外来患者数、1年間分を、手元のデータなんですけども、府中市の上下町が66%、次に多いのが神石高原町の12%、次に多いのが三次市の11%、その次に府中市、上下町を除く府中市が6%で、三次市と言っても上下町に隣接した三次市甲奴町とか、神石だと神石高原町とか、上下町と隣接した地域から患者さんが来てると。

上下町を除く府中市と言っても、地理的に言うと北市民病院と府中市民病院の間点の地域なんですけど、具体的には木野山町とか行徳町とか斗升町、今現在府中市民病院の方で巡回診療をされてる地域なんですけども、府中市、合併前の府中市

の北部がやっぱり府中北市民病院に来られてる。それを合わせると 95%の患者さんが来られてる。

診療圏域から見ると、北市民病院の診療圏域が備北のメディカルネットワークの圏域に近いというところで、今回備北メディカルネットワークの連携区域に府中市上下町を入れていただくことで、大きな診療圏域の中で、人材確保とかそんなところを取り組んでいこうと。

そんなところを目的に参加したわけなんですけれども、具体的に言うと、今すぐ、入ったからすぐこういった効果がありますというところはないんですけども、北市民病院と三次中央病院の関係でいうと、メディカルネットワークに参加する前から、北市民病院は透析やってますけれども、腎臓内科の医師に三次中央病院から毎週非常勤医師として来てもらって、コンサルしていただくとか、あとは糖尿病内科の非常勤の先生も、大学から直接の非常勤の支援を受けるという方法ではなくて、三次中央病院に常勤医師として派遣された医師が北市民病院に応援に来ると。そんなところで既に医師のところでは支援が始まっています。

将来的には、先ほど言いました大きな連携区域の中でこんな取り組みが進んで、地域全体の医療の需要に応えていければいいなという思いを持っております。

ちょっと長くなりました。すいませんでした。

安達委員： よくわかります。ありがとうございました。

三次中央病院などの基幹病院を中心としたこのネットワーク、非常に期待されているところだと思いますので、ぜひうまく参画されたらというふうに思います。

あともう一つは奨学金制度で、医師が市内で勤務を始められた、これも大変素晴らしいことだと思うんですけども、この奨学金制度っていうのは今後もずっと継続的にされていかれる制度なんでしょうか。

小野市長： 奨学金制度について、私の方から答弁させていただきたいと思います。

今現在受けておられるのが4人おるわけですが、今回新しく奨学金制度を利用して病院の方に入っていた、生徒さんというか先生、ドクターを見ますと、非常に効果として大きいものがあるというふうに認識しておりますので、今後とも、こういった形で続けていけるかっていうのを検討しながら、毎年になるのか何年かに1回になるのかっていうところもあるのかもしれませんが、前向きに検討して続けていければというふうに思っております。

以上です。

安達委員： ありがとうございました。私からは以上です。

内藤委員長： はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

石原副委員長： 失礼します。

黒字化ということで、すごく努力をなさって達成なさったんだろうと思っております。伺いたいことというのは、病床利用率の上昇というところの、理由というか取り組まれた内容というかそういうものを、何か具体的に教えていただけることがありましたら教えていただければと思います。

よろしくお願いします。

八幡事務長： 府中市民病院の事務長の八幡と申します。

令和6年度の患者数というところなんですけど、もともと計画が127人/日ということで設定させていただいておりました。ところが、7月までは120人/日に満たないような入院患者数の方で推移しておりましたので、何とかということで、目標設定数値ということで、最低ノルマということで120人/日、目標として131人/日という数値を設定させていただきました。

院内での周知ということで、120人/日を切ったときに、非常事態宣言ということで院内に周知させていただいて、入院患者さんのベッドコントロール、在院コントロールによって何とか120人/日以上、130人/日を目指していこうということでコントロールの方をさせていただいております。

ですので、平均在日数の方が、令和5年度が20.6日なんですけれども、令和6年度の実績として22.5日というところで、1.9日ほど上昇してるんですけど、新患ももちろんとっていただきながら、平均在日数がある程度確保して、よりよい医療を提供させていただきながらしっかり療養していただいて在宅の方に帰っていただくという取り組みの方を1年間、それでさせていただいた次第です。

以上です。

多田理事長： よろしいですか。

追加で申し上げます。ベストはベッドコントロール、これが一番。各師長さんが毎朝集まって、少し余裕があるのか、それとも少し早く患者さん、帰れる人は帰って、経営の余裕をつくらなきゃいけないのか、そういったことを情報共有をしっかりとってるというのが一つ。

あともう一つは、電子カルテを朝最初に見ると、今何人入院がありますとか、かなり厳しいですよとかね、そういったことが各医師に、ぱっと出るんで、それを見ながら、それも考えながら外来をやっているという状況です。

よろしいでしょうか。

内藤委員長： はい。

私の方から。今病院の7割が赤字だということを言われてると思いますけども、皆さんおっしゃられるとおり、黒字化されたというのは、ちょっと私も最初お聞きしてびっくりしたところがあるんですけども、黒字化といっても、令和6年度の前半はちょっと悪かったとかありますし、ちょっとしたことですぐまた赤字に転落し

ていく可能性が高いんじゃないかと思いますね。

黒字になった原因っていうのはあんまり検討できてないんだというような話だったと思うんですが、その辺、もう少し細かく、何かが、収益がよかったとか、外来はどうなのとか、もう少し細かくチェックしていかれるように検討していただければと思うんですけど、いかがでしょうか。

多田理事長： おっしゃるとおりでございます。大体大まかに入院か外来かっていうと、入院の収益が多かったと。これは両病院ともそういうことであります。それから数もだし、それから単価も上がってるというところもありますし、それからあと外来では、患者数が少なくなってるんですが、単価が上がってるんです。特に患者さん、必要な検査とかそういったことがかなり漏れなくできてるというところもあるかと思います。

それから入院についても、細々した加算とかそういったことについても、できるだけ行動抑制を少なくして減算を防いでいこうとかいうそういう細々した努力が積み重なったというふうには考えておりますが、もう少し具体的なところは詰めていきたいというふうに思っております。

内藤委員長： ありがとうございます。

外来の、人数は少なくとも単価が上がっていると。そういった評価をどんどんしていければよろしいかと思ひますし、非常勤の先生が来られて、非常勤の先生がどのぐらい病院に貢献していただけているのかとか、週に1回とか来られる先生もおられると思うんですけども、それでも結構需要があるとかそういうことがあれば、またドクターをできるだけ増やそうとか、そういうことも考えていただければいいんじゃないかなという気もしますので、よろしくお願いいたします。

ほかに御意見ございますでしょうか。

特にございませんですか。

それでは、委員の皆様からいろいろ御意見出ましたけど、おっしゃられた黒字に対しての評価があり、皆さん、非常にいい評価をしていただけたと。これはできるだけ次も続けていただきたいと思いますし、またリハビリも非常にピックアップして増えてきたと。それで外来の方も単価が上がってきてると。非常に努力されてるなというのがわかりました。今後ともよろしくお願いいたします。

府中市におかれましては、このような御意見を踏まえまして、令和6年度の業務実績評価の取りまとめを行っていただきまして、最終的な評価結果については改めて各委員にお示ししていただきますようお願いいたします。

~~~~~

内藤委員長： それでは続きまして、『(2)報告事項について』を議題といたします。

令和7年度年度計画について、事務局から説明をお願いいたします。

課長： はい。事務局から御説明させていただきます。

資料5、病院機構から提出いただいております『令和7年度 年度計画』の方を御覧ください。

事前に資料を送付させていただいておりますので、詳細については割愛させていただきますが、この年度計画書に基づきまして、令和7年度の業務運営等が進められている状況でございます。

以上です。

内藤委員長： はい、ありがとうございました。

この件について何か御意見ございますでしょうか。

特にございませんですね。

~~~~~

内藤委員長： それでは、以上で本日の議題はすべて終了いたしました。

委員の皆様からほかに何かございますでしょうか。

特にないようでございます。

それでは、委員の皆様、御協力ありがとうございました。

進行を事務局にお返しいたします。

~~~~~

課長： 内藤委員長、ありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましても、本日は熱心に議論いただき、誠にありがとうございました。

最後に、石原副委員長から閉会に当たっての御挨拶をいただければと存じます。

石原副委員長、よろしくお願いいたします。

石原副委員長： 失礼いたします。

委員の皆様、今日はありがとうございました。多田先生を始めとして、病院機構の皆様も、どうもありがとうございました。

非常にいい内容の評価委員会になってるというふうに思っております。皆さんおっしゃるように、非常に病院の環境というのが、コロナが終わって患者さんがなかなか戻ってこないということに加えて、世の中の物価が上がり出したと、人件費も上がるんですけども、それがかなり病院経営には影響が大きい。これも皆さんおっしゃったようなことなんですけど、これがまだ続く、というよりもっと上がるという流れになるのではないかと考えております。

また、政治的にも、先日選挙がありましたけれども、社会保障の方へ財源を、財源というか予算を配分をしていただくような流れがこれからどうなるのかということもよくわからないということになりまして、非常に厳しい内容の状況が続くというふうには思うんですけども、ただ一方で、生活している人というのは、やっ

ぱり病気というものを抱えておられたり高齢になると、そこを手当していただきたいという需要はあるものですから、病院という医療機関というものは、続けていただくというのが地域の願いと思っております。

特に、患者さんも減るということもあるんですけど、でも高齢化で皆さん病気をされる人が増えるということがあるんで、ニーズは確実にあるというふうに思っております。

なかなかドクターの十分な人数というものの確保が難しい状況でありますけれども、さっき、備北の方のネットワークで連携をなさるっていう話を伺って、これ、非常に個人的には興味があります。やっぱり提供される側の連携というものは、その医療資源の、人間ですから効率っていう言い方はあまりよろしくないと思うんですけども、医療を待っている人からするとすごく良いことというふうに期待をしたいと思いますので、ぜひ努力を続けていただくのと、それと、そういうふうに連携をして体制をつくっていただければと思っております。

病院がなくなるということと地域の人はずごく不安になりますので、大変厳しい状況ではありますけれども、ぜひ頑張ってください、市民のためにサービスを提供していただけるようよろしくお願いします。

今日はどうもありがとうございました。

課長： ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして令和7年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を閉会させていただきます。

今後も引き続きまして、府中市、また府中市病院機構への御支援をよろしくお願いいたします。

評価委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。

19時59分 終了

~~~~~